
ISさんの世界にMS（IS大）で突っ込みたい

grind

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ISさんの世界にMS（IS大）で突っ込みたい

【Zコード】

Z6321Z

【作者名】

grind

【あらすじ】

浪漫ある機体は素晴らしい。そんなコンセプトで動く主人公が、テンプレでチート頭脳と“ヴォーダ”を貰つてあれこれする話。筆者がド初心者&頭空っぽにして書いてますので、読んでくださる皆様も頭空っぽにして読んでくれれば幸いです。みんなが幸せになれます。万死に値する……では、どうぞ。

0話 テンプレット大事

突然だが、みんなはロボット系アニメの浪漫と聞いて何を思い浮かべる？

たとえばドリルだ。そう、ドリルだ。大切なことなので一回言った。あしからず。

というやつドリルはもうすべてにおいて浪漫だな。ロボット業界だけで独占するのがもつたいたいくらいの浪漫だ。

あとは…… そうだな、ロケットパンチなんかも浪漫だろ？

何時だつたか、必死になつてロケットパンチの実用性を語つてる雑誌があつた気がするが、別に見てる側は誰もロケットパンチに实用性なんて求めてないよな。浪漫だもん。

他には別に武装じゃなくともロボットには浪漫がてんこ盛りだ。

たとえば、知つてる人は知つてる鉄。あれは操縦桿が棒一本なんだぜ？ 信じられるかよ。

……だが、そういうところがたまらなく浪漫だ。

そして、みんなにも大好きな浪漫機体があると思うんだ。

だけれど、俺には譲れない浪漫がある。

それは、砲戦仕様の重装備な機体たちだ。

それはヘビーームズであつたりレパルド、バスタなんかもそうだ。え？ ガンダばっかり？ みんな知つてそういうの挙げたんだよ。あいつら一発でも被弾したら勝手に自滅しそうなのに、『グウレイオ！』とかいいながら最前線で出張つてゐるんだぜ？

……浪漫じゃないか。

そんな砲戦フェチの俺の目に、数年前のアニメの機体で俺の心の中心をど真ん中ストライクな奴がいた。

ガンダムOに出演していた『GN-005ガンダムヴァーチュ』さん、もしくはその後継機の皆さんだ。

いやね、惚れたね。一曰惚れだつたよ。

あの無意味そうな重装甲にめろめろだつたさ。それに必死に理由付けしようとする製作者たちも大好きだ。

もちろんプラモも買つたし（種類が少なくて泣いた。砲戦フェチ友と泣いた）、アニメも最後まで見た。

変態ハム仮面が良い味出してたなあ……。

で、ここまでで俺が何を言いたいのかといいますと。

転生、しました。

ここで『おいふざけんな説明しろwww』とか思つたみんな、勘弁してくれ。俺も混乱してるんだ。

混乱しすぎて俺の浪漫を神様にかたつちまんつたんだ。

……分かるかい？神様に俺の個人的な趣味を曰を血走らせて喋り捲つたんだぞ？

神様、引いてました。いえーい。俺つてば神様を引かせるほどいの……なんだろ、変態？

やべえ、自分で言つて落ち込んできた……。

で、本当だつたら天国的なところに送つてくれるつていう話だつたんだけど、俺がそんなにも熱弁したもんだからいわゆる『オリ主』として、転生させて貰える様になつたんだ。

はい、ここまでテンプレ。

この言葉を最初に書けばここまでの前置きいらなかつた気がするよ。気のせいだよね？

まあ、こんな汚い地の文をここまで読んでくれたつてことは相当訓

練された猛者（変態）なんだろうな。たぶん。

まあそれを見ておき、転生したわけですよ。

で、ロボット系の世界となると選択肢は限られてくる。んで、砲戦系の機体が輝けるのはリアル系の世界だけな。これ常識。

まあ、全身核ミサイルまみれのあの人以外だが。

で、そこで神様がルーレット（…？）で決めた俺の転生先が、『*ITS インフィニットストラトス*』の世界でした、ってわけ。

あそこはまあ、色々制限が多いから、色々つけでもらつた。

まず、チート頭脳。あと、OO劇中に出てきた量子型演算処理システム“ヴェーダ”まで付けてもらつた。

まあ、その代わり、“ヴェーダ”的ほかに『実物』はもらえなかつた。GNZドライブなしでどないせいやーねん。

いや、どないするつてこつかもう、……造るしかないって訳だ。

つまり、転生してからの両面の田標は、GNZドライブとITSサイズのちつせえMSの作成。この2点がことになる。

おーおい、ITSの世界なのにITSつらうねえのかよ……。って思つたみんな、じめんな。TV版のも原作のも一番近そつなのが全身装甲の銀の福音さんなんだけど……。

圧倒的に、浪漫が足りない。

いやね、別に貶してるわけじゃないのよ？だから原作ファンさん右投げないでって。頼むから。

俺から見ても白ズボやブルーティアーズはかっこいいと思つ。

乗つてるのが（約一ヶ月除き）みんな可愛い女の子つてもグーダ。

でも、あのかっこいい感じじゃなくて、なんていえばいいんだ？うーん、むせむ。……違うな、くそボキヤブラーの無むがこいで出るとは……。

とりあえずヴァーチュさんみたいなゴッキー奴を作つて学園に潜り込みたかったんだ。

それから世界を引っ搔き回す束さんにも興味あるしね。

それじゃあ、行いつか。

2話 天才と天災の邂逅、その序章。（前書き）

頭空っぽにしてみてくださいなー。

2話 天才と天災の邂逅、その序章。

……なんて、かつこつけで「めんなさい。

そしてプロローグで名前出さなくて「めんなさい。

プロローグで変な語りかまして「めんなさい。

生きてて「めんなさい。

……うん、ちょっと卑屈になってきたから思考を戻そう。

俺の名前は柏木栄。うん、普通な名前だ。普通って素晴らしい。世界は普通で成り立ってるからね。

そして、今の俺はぴっちはじめの小学一年生。……自分でいってて死にたくなってきた。

そして、テンプレ的に一夏君たちと一緒にクラス。うん、ここもテンプレ。

でもや、一つ気になることがあるんだ。

俺だって原作キャラってはある意味偶像崇拜的なを抱いてるから喋れるのはうれしい。それはいい。

でも、俺が死ぬ前のうちは主に2種類に分かれてたんだ。

一つは今までと何も変わらないオリジンの痛快チート進撃。みてて氣

持ちいい!

一つ目はオリ主の周りにいたら、原作キャラに絡みたがるオリー主
が出てくるやつ。

この二つ目のオリー主君は、本来主人公が背負うべきだつたはずの疑問や面倒ごとを一手に引き受けた。ザイイ奴だ。

つまりなにが言いたいのかといふと、ここにさしつたかして一夏たちに話しかけたら後々取り返しの付かないことになりそう、ってこと。幸い俺はオリー主君たちのよつて金髪銀髪でもオッドアイでもない。普通に過ぎせばなんの問題もないはずだ。

普通に過ごせばなんの問題もないはずだ。

なんて思つていた時期が、俺にもありました。

「おーこ、えーこ、町へいこむこー

「やつだい、やへんなことをへべー。」

原作キャラへのまつから寄ってきた場合は、どうすればいいんでしよう。

うん、やっぱ俺って考えなしだね。

チート頭脳のお陰で、GNドライブの理論はしつかり頭に入つてた
んだけど、それを形になるとまた別の話だつた。

だから、親のお下がりのノートPC（数世代前のやつ）を借りて、とりあえずデジタル化しようと思つてたんだが、一つ問題があつた。

量が半端ないんです……。

そう、たとえるならば誰もが一度は通つたであろう夏休みの宿題の単純作業。～を30回ずつ写しなさい。とか。

新しいものを考えるよりも、俺にとつてはむしろそつちのほうが辛い。てか終わらん。

そして、原作束さんの真似もしてみたくなつた俺は小学校にPCを持ち込んだわけですよ。宿題は授業中に遣るのが一番！

流石に中学校じゃあるまいし、まだそんな校則的なのもないみたいで、先生も大いに困つていきました。

何度か注意されたんだけど、校則と言つuzzタイのルールがこっちの味方な上、別に授業中までカタカタ遣つてるわけでもないので逃げ切れました。

逃げ切れたんだけど……。

クラスで孤立しました、はい。

まあ、少し考えれば分かることだよね。ていうか俺ちょっと前に世界は普通で成り立つてるとか中一くさいこといつてるじゃん。

で、一夏くんはこの世界でも大変正義感の強いお方のようで、積極

的に僕に声をかけてくれたわけですよ。

前世含めて三十路のおっさんが、涙しそうになつました。やつぱ肉体に精神が以下駄。

同じようにスーパーFLAGビルダー一夏さんは、もつすつかり篠さんとも仲良くなつてたみたいで。原作だともうひとつ後な気がするんだけどなあ……。

「わかったー、こまいくよー」

これで放課後。今日は篠さんが家に誘つてくれた。でもハートヤシを手放さない俺。クウキヨメ。

まあ、別に家に帰るのが面倒くさいだけだし、使わないからいいよね。

なんて思つてる時期が、俺にも……つてこの流れ一回田だ。自重しそう。

うん、なんかね、篠さんに遊びにこつたんだけど、どうやらセロに束さんと千冬さんの年長コンビもいたみたいで、そこで今遊んでます。

え? なんで、加わらないのかつて?

おーいえ、君たち忘れたのかね? 束さんはいつぱんぴーぽーにはまるでGでも見るかのような視線だけくれて無視するんですよ? そして、俺はMではない。じーじー重要。

という訴で、体調が悪いとか適当に言い分けつけて家の中にこもって理論組みします。

これでやっと、GNDライヴの基礎が組み終わつた頃。急がないと原作に間に合わないぜ。

ちょっとスピードアップしますかねえ……。

ところ変わつて一夏たち。

「ふははあー束さんにそんな幼稚な手が通じるとでもおーー。」

「もう東姉以外は全員団結してるもん！これで負けたら嘘だ！」

声が聞こえてくる。ボーネームに興じてこのよつで、わいわいと論じそつた

「ふふふ、甘いねいっくん！もう東さんはどれだけの力をこめれば何週ルーレットが回るか位、把握済みなのさ！」

「き、汚い！さすが束姉汚い！」

「壊めよ壊めよーー!!」

とこのよつせ、束の躊躇劇の終幕のよつだ。

「はあ、レレレこのゲームで手加減してない束に勝てたことが無いな
……」

ゲームも終わり、ひと段落ついて血でお茶とお菓子を食べてこねと、
ぽつりと千尋がそんなことを漏らした。

「うーん、束さんは天才だからねー。」

「納得でもしちまつ自分が恐ろしいな……」

遊びに来たのでしげしげののも、十一分に恐ろしい筈なのだが
……。

「やつこえば栄君は?」

そんなどせ、一夏が栄のことを千尋に尋ねた。

「レレちに着てなこいとせまだ調子が悪いんじやないのか?」

「うーん、やつなんだけど……」

「うやうやー夏は何か疑問に思つてこむらしく。」

「うーん、どうしたの? 束さんとせあんな『ハハハズビ』でもないんだけど」

「『GIGA』クズつてお前な……」

千冬があきれゝとたしなめの成分比の視線を束へと向ける。

「また『GIGA』んこじつてやうだよね？」

「うん……そり悪ひ」

と、その隣で一夏と篠が栄のことをかんぐつていた。

「んー？あの『GIGA』クズはPCなんてませた物使つてるのかい？」

束が不思議そうに顔を傾ける。確かにこの年齢でPCを弄り回すといふのは少々奇異だ。栄もそれが原因でクラスで孤立する」とになつたのだから。

「うん、えつとね、いつも『いそげりんんだて！』とかよく分からぬい」とこいつはそこのいじつてるよ?」

「……ふーん」

「おこ、束、何処へいく？」

「ちよつと、そこまでー。束さんはフリーダムなのがー。」

そうこつて束は席を立ち、栄がいるあたりの部屋へと入つてこぐ。

天才（天災）と天才（馬鹿）の邂逅であった。

2話 天才と天災の邂逅、その序章。（後書き）

ひとつあえずここまでー。長いか短いかも分かつてません。
……長いことはありませんねすいません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6321z/>

ISさんの世界にMS（IS大）で突っ込みたい

2011年12月21日12時50分発行